



ほっとハート東出雲学園 松江市立揖屋小学校・学校だより

揖屋っ子



令和8年度 第5号
令和8年 9月16日
文責 校長

学校教育目標「自ら学び、考え、人とかわりながら、たくましく生きる揖屋っ子の育成」

自立

協働

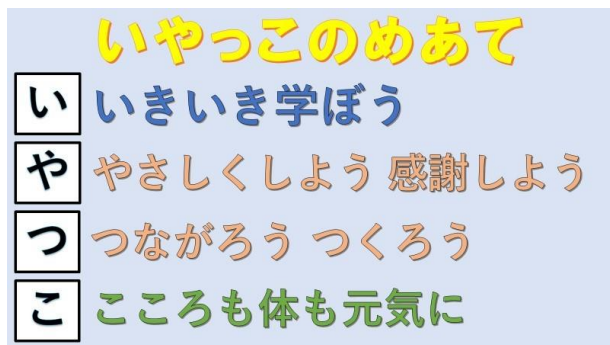
創造

猛暑の中の2学期スタート、少しずつ過ごしやすく。

夏休みが終わり、9月1日(火)に2学期の始業式を行いました。午前から35度を超える気温のため、登校時は多くの荷物を持ちながら、大量の汗をかいて登校してきた子どもたちでした。始業式はこの高温状況により、各教室や学年ルームなど、冷房が効くところで、校内オンラインを利用して式を行いました。夏の高温の状況を考えると、ひと昔前には普通教室にさえ冷房がなかったことが今や信じがたくも思えます。いよいよ体育館にも、冷房が必要な環境となっているのではないかと感じているところです。

さて、式の中では、この日が防災の日ということもあり、夏休み中に生じた熊本県での地震や各地で起きる豪雨等災害についてふれ、お見舞いの言葉や、命を守ること、訓練の大切さを共有しました。

次に、2学期にはどんな「自分」になっていきたいかを問いかけ、先生方も含めて、「いやっこのめあて」を再度確認しました。伝えたことを紹介したいと思います。



い いきいき学ぼう

…よく聴いて、よく話し、「なぜだろう？」を大切に学習すること。図書館でも多くを学ぶこと。

や やさしく感謝しよう

…自分のことを一生懸命行くと、少しずつ友達や人を大切にできるようにもなること。そうなれば、助けてもらうことも生じ、感謝の時間も増えること。

つ つながろうつくろう

…学級の友達や学年の友達とつながって、楽しく生活が送れるようにし、今よりもいい学級を先生とみんなでつくること。

こ こころも体も元気に

…生活時間をしっかりと整えること。メディアの時間はできるだけ短く、体を動かす楽しさを身につけること。

このことをイラストで表現し、イメージをもってもらいました。オンラインはこのようにときに資料がしっかりと提示でき、とても有効でした。めあて、イラストは校長室前に掲示しています。

2学期は行事が多い学期です。子どもたちが成長できるよう引き続き、学校の活動に対しまして、ご協力や見守りをお願いいたします。

島根県学校図書館活用教育研究事業 授業公開に向けて

今年度、県の学校図書館活用教育研究事業の指定校をお受けしています。本校では指定を受ける以前より、図書館活用教育について研究を行っています。児童が主体的に学習に向かい、探究するためにどのように図書館の利・活用ができるかどうかについて、教職員で日々話し合い、深めています。

学校図書館は単なる本を借りる場所ではなく、学びの中心の場所となるために、いっこ図書館のコンセプトについて担当教員より示されています。概要は下記のとおり、ほんの一部ですが紹介します。

いっこ図書館 コンセプト

○ 今年度のテーマ

「 いっこたちの探究的な学びのストーリーを支えるいっこ図書

～いっこが遊ぶように学ぶ姿を求めて～ 」

読みたい！（読書センター） 知りたい！（学習・情報センター） 使ってみよう！（学習センター）
小学校学習指導要領では・・・

各教科・領域での計画的な学校図書館の利・活用



<学校図書館の4つの機能>

① 読書センター機能 ② 学習センター機能 ③ 情報センター機能 ④ 教職員のサポート機能

このようなコンセプトのもと、図書館を活用した授業デザインを考え、土台となる授業づくりについては、主に子どもたちが追究したくなる問いや課題が生じる工夫に取り組んでいます。

9月16日(水)には5年生が、本校の研究提案としての授業公開を行います。市内外から約70名の参加が見込まれており、提案や意見交流を行います。図書館のよりよい利・活用について高め、子どもたちの確かな学力育成を目指していきたいと思います。



ICT 学校訪問と1年生ギガ開き

ICT の活用について、松江市教育委員会から訪問、ご指導をいただきました。どの学年もまんべんなく、段階的な活用ができていることを伝えていただきました。ICT は機器に任せるものではなく、学習を高めていくための手段として、図書館活用同様、授業デザインをしっかりと行う必要があります。

また、同じ日に、1年生がいよいよタブレットを使用することになり、「ギガ開き」を行いました。松江市教育委員会の方にタブレットを使用する際の約束を3つ教えてもらい、その後校長から一人一人に手渡しました。1年生たちは、渡されると「大切に使います」「3つの約束を守ります」「6年間大切にします」など一言話しながら受け取ってくれました。その後のログイン作業もそれぞれの子どもたちががんばっていました。1年生がタブレットとのよい出会いになり、効果的に使用できるよう指導を続けたいと思います。

